

ブルームス「ドイツ・レクイエム」歌詞 逐語訳

第1楽章

Selig sind, die da Leid tragen:
幸いな ~である ~の人は ここに 悲しみを 背負う
形 V.3p 現※ 関代.p1 adv ns4 V.3p 現

denn sie sollen getröstet werden.
なぜなら 彼らは ~はずである 慰められる
conj 代.3p1 V.3p 現 [充分] [不定]

悲しみを背負う人たちは幸いである。なぜなら彼らは慰められるはずだから。(マタイ福音書 5 : 4)

Die mit Tränen säen,
~の人は ~とともに 涙 種をまく
関代.p1 prep fp3 V.3p 現

werden mit Freuden ernten.
~だろう ~とともに 喜び 刈り取る
V.3p 現 prep fp3 [不定]

Sie gehen hin und weinen
彼らは 出て行く 泣く
代.p1 V.3p 現[分動 hin gehen] conj V.3p 現

und tragen edlen Samen
運ぶ 貴重な 種を
conj V.3p 現 形.ms4[edel]※ ms4 ※

und kommen mit Freuden
そして (帰って)来る ~とともに 喜び
conj V.3p 現 prep fs3

und bringen ihre Garben.
持ってくる 彼らの (収穫の)束を
conj V.3p 現 所形.p4 fp4

涙とともに種まく者は、喜びとともに刈り取るだろう。

彼らは、貴重な種を携えつつ泣きながら出て行き、喜びとともに収穫の束を持って帰ってくる。(詩篇 126 : 5-6)

※ Selig sind・・・この部分、聖書のギリシア語原文は主動詞がない(ここでの sind)。

イエスの語ったであろうアラム語でも同じで、これは「幸い(あれ)」と呼びかける言葉である。

有名な「貧しい人は幸いである」も、本来は「幸い(あれ)、貧しい人」というものであった。

※ edlen が単独強変化なら男性単数 4 格である。しかし、普通は「種」は複数だろうから、ここでは edlen の前に ihre(彼らの)が省略された混合変化で男性複数 4 格ではないだろうか? (※ Same や Mensch の格変化は、単数 1 格以外は全て Samen, Menschen となる。)

第2楽章

Denn alles Fleisch, es ist wie Gras
 全ての 肉体(人) それは である ~のよう 草
 conj 形.ns1 ns1 代.3ns1 ※ V.3s 現 adv ns1

und alle Herrlichkeit des Menschen
 そして 全ての 栄光は 人の
 conj 形.fs1 fs1 定 ms2 ms2

wie des Grases Blumen.
 ~のよう 草の 花々
 adv 定 ns2 ns2 fp1

Das Gras ist verdorret und die Blume abgefallen.
 草は ~である 枯れる そして 花は 散る(離れ落ちる)
 定 ns1 ns1 V.3s 現 形 conj 定 fs1 fs1 ※ [完分、分動 ab_fallen]
 verdorren(枯らす)[完分 verdorrt] ※間に ist が省略されている。

全ての肉体、それは草のごとく、そしてその栄華は草の花のようなものである。草は枯れ、花は散るのだ。
 (ペテロの第一の手紙 1 : 24)

So seid nun geduldig, lieben Brüder,
 だから ~なさい 今 耐え忍ぶ 愛する 兄弟たちよ ※混合変化 lieben の前に
 conj V.2p 命令 adv 形 形.p1 ※ mp1 meine 又は unre が省略か？

bis auf die Zukunft des Herrn.
 ~まで 将来・未来 主の
 prep prep 定 fs4 fs4 定 ms2 ms2

Siehe, ein Ackermann wartet auf
 見なさい 農夫は 待つ
 V2s 命令 不 ms1 ms1 V.3s 現 prep

die köstliche Frucht der Erde
 高価な 実りを 大地の
 定 fs4 形.fs4 fs4 定 fs2 fs2

und ist geduldig darüber,
 ある 辛抱強く その間
 conj V.3s 現 形 adv

bis er empfahe den Morgenregen und Abendregen.
 ~まで 彼が 受け取る 朝の雨 夕べの雨
 prep 代.3s1 V.3s 現 定 ms4 ms4 conj ms4
 empfangen の古形 empfahe Regen(雨)※

だから今は耐え忍びなさい、愛する兄弟たちよ、主の(復活される)将来まで。
 見よ、農夫は、大地の尊い実りを、耐え忍んで待っている。朝の雨と夕べの雨があるまで。(ヤコブの手紙 5 : 7)

※「朝の雨と夕べの雨を受け取るまで」……ギリシア語聖書原文では、「早いものと遅いものを受け取るまで」である。その場合、省略されているのは、その前にある「実り」であると解釈されるのが普通である。それを「雨」と補った古写本もするが、現代聖書学はそれを採用しない。しかしルターは「雨」を採用し、後世の翻訳にも影響を与えた。

Denn alles Fleisch, es ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret und die Blume abgefallen.

Aber des Herrn Wort bleibt in Ewigkeit.
しかし 主の 言葉は 留まる 永遠に
conj 定 ms2 ms2 ns1 V.3s 現 prep fs3

全ての肉体、それは草のごとく、そしてその栄華は草の花のようなものである。草は枯れ、花は散り落ちるのだ。しかし主の言葉は永遠に残る。(ペテロの第一の手紙 1 : 24-25、ここはイザヤ書 40 : 6-8 を引用した部分)

※ルター訳聖書原文では 1 行目「Denn alles Fleisch ist wie Gras」。「es」はブラームスの付け加えたものである。

※イザヤ書 40:6-8・・・「人はみな草だ。その麗しさは全て野の花のようだ。主の息がその上に吹けば、草は枯れ花は萎む。確かに人は草だ。草は枯れ花は萎む。しかし、我々の神の言葉は、とこしえに変わることはない。」(口語訳)

Die Erlöseten des Herrn werden wiederkommen ※ erlösen の[完分]
救われた者たちは 主の(によって) ~だろう 帰ってくる →形容詞の名詞化
定 p1 ※形名.p1 定 ms2 ms2 V.3p 現 [分動、不定]

und gen Zion kommen mit Jauchzen;
～に向かって シオン 来る(だろう) ～とともに 歓呼
conj prep [gegen 古形] [不定] prep [不定→名.3]

ewige Freude wird über ihrem Haupte sein,
永遠の 喜びが だろう ~の上に 彼らの 頭 ある
形.fs1 fs1 V.3s 現 prep 所形.ns3 ※ ns3[古形] [不定]

※「彼らの頭」が単数?

Freude und Wonne werden sie ergreifen,
喜び と 楽しみを ~だろう 彼らは つかみ取る
fs4 conj fs4 V.3p 現 代.3p1 [不定]

und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.
そして 悲しみ と 溜息は だろう 離れる ~に違いない
conj ms1 conj [不定→名 1] V.3s 現 adv ※ [不定]

⇨名詞 Weg(道)の e は長母音

主に救われた者たちは帰ってきて、その頭上に永遠の喜びをいただき、歓呼とともにシオンに向かって来るだろう。彼らは喜びと楽しみをつかみ取り、悲しみと嘆きは去るに違いないだろう。(イザヤ書 35 : 10)

第3楽章

Herr, lehre doch mich,
 主よ 教えて下さい (しかし) 私に
 ms1 V.2s 命令 conj 代.1s4

dass ein Ende mit mir haben muss,
 [従属節] 終わりが 私に ある に違いない
 conj 不 ns1 ns1 prep 代.1s3 [不定] V.1s 現

und mein Leben ein Ziel hat,
 私の 生命が 終点を 持つ
 conj 所形.ns1 ns1 不 ns4 ns4 V.3s 現

und ich davon muss.
 私は そこから (去ら)ねばならない ※起点を表す davon に対応して
 conj 代.1s1 adv V.1s 現※ 省略された動詞を補った。

主よ、私には終焉があるに違いなく、私の生命には終点があり、
 私はそこ(生命)から去らねばならない、と教えてください。(詩篇 39 : 4)

Siehe, meine Tage sind einer Hand breit vor dir,
 見よ、 私の 日は である 一つの 手の 広さだ ~の前で あなた
 V.2s 命令 所形.np1 np1 V.3p 現 定 fs3 fs3 形. prep 代.2s3

und mein Leben ist wie nichts vor dir.
 そして 私の 命は である ~のよう 無 ~の前で あなたの
 conj 所形.ns1 ns1 V.3s 現 adv 代. prep 代.2s3

Ach, wie gar nichts sind alle Menschen,
 ああ、 ~のよう まことに 無 である 全ての 人々は
 [間投詞] adv adv 代※ V.3s 現 形.mp1 mp1

die doch so sicher leben.
 関代.p1 できえも そんなに 確固に 生きる
 adv adv adv adv V.3p 現

見よ、私の日はあなたの前では束の間であり、私の一生はあなたの前では無に等しい。
 ああ、まことに、全ての人は無のようである※。そんなに確固に生きていてさえも。(詩篇 39 : 5)

※ ルターのドイツ語では、ここも前行と同じく「無 nichts」になっているが、日本語訳聖書ではこの行は、
 「息にすぎない」(口語訳)、「空しいもの」(空しいもの)となっている。(ヘブライ語 hebel = 「息」)

Sie gehen daher wie ein Schemen
 彼らは 行く それ故 ~のように 影・幻
 代.3p1 V.3p 現 adv adv 不 ms1 ms1

und machen ihnen viel vergebliche Unruhe,
 ~を為す 彼らに 甚だしく 空しい 動揺を
 conj 3p 現 代.3p3 adv 形.fs4 fs4

sie sammeln und wissen nicht,
 彼らは 収集する けれども 知らない
 代.3p1 V.3p 現 conj V.3p 現 adv

wer es kriegen wird.
 誰が それを 受け取る だろう
 関代.s1 代.ns4 [不定] V.3s 現

人々は影のようにさまよい、彼らはむなしいことのために騒ぎまわるのです。

彼は積み蓄えるけれども、誰がそれを収めるかを知りません。(詩篇 39 : 6)

Nun, Herr, wes soll ich mich trösten?
 今や 主よ 何で ~べき 私は 私を 慰める ※ was の 2 格 wessen の古形
 adv ms1 [疑代※] V.1s 現 代.1s1 代.1s4 [不定]

Ich hoffe auf dich.
 私は 希望する ~の上に あなた
 代.1s1 V.1s 現 prep 代.2s4

今や、主よ、私は何で自らを慰めるべきでしょうか？ 私はあなたに望みます。(詩篇 39-7)

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand,
 正しい者たちの 魂は ~にある ~の中に 神の 手 ※ 形容詞 gerecht の弱変化
 定 p2 形名 p2 ※ fp1 V.3s 現 prep ms2 fs3 (複数 2 格) の名詞化。

und keine Qual rühret sie an.
 そして 無い 苦悩は 触れる 彼らに ※
 conj 否冠.fs1 fs1 V.3s 現 代.3p4 prep ※ rühren an 4 格 「~に触れる」

正しい者の魂は神の御手のなかにあり、そして、いかなる苦悩も彼らに触れることは無い。(知恵の書 3 : 1)

※ 「知恵の書」は「旧約外典」の1つであり、BC.1c 頃、アレクサンドリアで成立したとされる。

※ 「旧約外典」とは、カトリックと正教会では「旧約聖書」に含めるが、ユダヤ教とプロテスタントでは正典に含めない文書のこと。

BC 3 世紀から BC 1 世紀にかけて、ユダヤの地を離れヘレニズム世界の中でギリシア語で暮らす「ディアスポラ」のユダヤ人のために、ユダヤ教の聖書がギリシア語に翻訳された。これを「七十人訳聖書」という。

第一次ユダヤ戦争でローマ軍によりエルサレムの神殿が陥落・破壊された(AD.70)後、エルサレムの西ヤムニアにおいて 90 年代、ユダヤ教学者たちは彼らの聖書のヘブライ語原典「マソラ本文」を確定した。その際、「七十人訳聖書」に含まれていた幾つかの文書が正典から除外された。

ローマ帝国がキリスト教を国教化した 4 世紀末、ヒエロニムスが中心となってラテン語訳聖書「ヴルガータ」を作成した。これには「マソラ本文」以外の文書も含まれた。

東欧のギリシア正教会はこれを受け継ぎ、「七十人訳聖書」に含まれているものを「旧約聖書」の正典と認めている。

西欧では、プロテスタントは、ルターが翻訳の際「マソラ本文」のみを正典としたのにならっている。

これに対しローマ・カトリックは、トリエント公会議(1545-63)において、従来通りラテン語聖書「ヴルガータ」にならって、ルターが外した外典を「第二正典」として含めることを決定し、今に至っている。

第4楽章

Wie lieblich sind deine Wohnungen, Herr Zebaoth!
 どのように 快い ことでしょう あなたの 住まいは 主よ 万軍の
 adv 形 V.3s 現 所形.fp1 fp1 ms1 (ラテン語 Sabaoth)

万軍の主よ、あなたの住まいはいかに快いことでしょう。(詩篇 84 : 1)

Meine Seele verlangt und sehnet sich
 私の 魂は 恋しがる (nach 3 格～) 慕う、渴望する (sehnen sich nach 3 格～)
 所形.fs1 fs1 V.3s 現 conj 再帰 V.3s 現 再代.3s4

nach den Vorhöfen des Herrn;
 前庭※ 主の ※ vor(前) + Hof(屋敷・中庭)
 prep 定 ms3 mp3 定 ms2 ms2

mein Leib und Seele freuen sich
 私の 身体 と 魂は 喜ぶ (自らを喜ばせる)
 所形.ms1 ms1 conj fs1 再帰 V.3p 現 再代.3s4

in dem lebendigen Gott.
 ～において 生ける 神
 prep 定 ms3 形.ms3 ※ ms3

わが魂は、主の前庭を恋しがり、渴望し、わが身体と心は、生ける神の前で喜びます。(詩篇 84 : 2)

※生ける神……偶像宗教の神を「死せる神」とし、それと対比してユダヤ教預言者は自らの神を「生ける神」と呼んだ。

※ leben とその現在分詞 lebend の le は長母音でアクセントだが、形容詞 lebendig[le·bèndiç]は、bén にアクセントで、
 le は長母音 e よりはやや短い発音 e・となる。(アクセントの無い短母音 o とも違う。)

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
 幸い ～の人に ～に あなたの 家 住む
 形 or 名 ns1 指代.p3 関代.p1 prep 所形.ns3 ns3 V.3p 現
 ※

die loben dich immerdar.
 称揚する あなたを 常に
 関代.p1 V.3p 現 代.2s4 adv

あなたの家に住み、常にあなたを誉め讃える人に、幸いを。(詩篇 84 : 4)

※ wohl……健康だ、善い、快適だ (→幸せだ)。selig (至福) とはニュアンスが違う単語である。

また、この部分のルターの訳文は主動詞が無い。ヘブライ語原文にも無い。

第1楽章冒頭「マタイ福音書」のイエスの言葉 selig と同じく、「幸い」の呼びかけの言葉なのである。

第5楽章

Ihr habt nun Traurigkeit,
 汝らは 持つ 今 悲哀
 代.2p1 V.2p 現 adv fs4

aber ich will euch wieder sehen,
 しかし 私は ~するつもりだ 汝らと 再び 会う
 conj 代.1s1 V.1s 現 代.2p4 adv [不定]

und euer Herz soll sich freuen,
 そして 汝らの 心は ~のはずだ 喜ぶ
 conj 所形.ns1 ns1 V.3p 現 再代 3s4 [不定]

und eure Freude soll niemand von euch nehmen.
 そして 汝らの 喜びを ~なかれ 何人も ~から 汝ら 取り去る
 conj 所形.fs4 fs4 V.3p 現(禁止) 指代.3s1 prep 代.2p3 [不定]

今、あなたがたには悲哀がある。しかし、私は再びあなたがたと会うつもりである。

その時、あなた方の心は喜ぶはずだ。何人もその喜びをあなたがたから取り去るなかれ。(ヨハネによる福音書 16 : 22)

Sehet mich an;
 見なさい 私を
 分離 V.2p 命令 代.1s4 [分離動詞 an_sehen]

Ich habe eine kleine Zeit Mühe und Arbeit gehabt
 私は (現在完了形) ちょっとした短い 時を 辛苦の と 労役の 持った
 ※代.1s1 V.1s 現 不 fs4 形.fs4 fs4 fs2 conj fs2 [完分]

und habe großen Trost funden.
 そして (現在完了形) 大きな 慰めを 見つけた
 conj V.1s 現 形.ms4 ms4 [完分]※
 ※ finden の完了分詞は gefunden
 ge-が省略? or 古形?

私を見なさい。私は、辛苦と労役の短い時を持ったにすぎないが、大いなる慰めを見つけたのだ。(シラ書 51 : 27)

※この「Ich=私」は、「シラ書」の著者のことである。

※「シラ書」……これも旧約外典の1つ。「ベン・シラの知恵」「集会の書」とも言う。

シラの息子(=ベン・シラ)たるイエス(ヨシュア)がヘブライ語で記したものを、彼の孫がギリシア語に翻訳したもの。序言の内容からその翻訳はエジプト王プトレマイオス3世の時代= BC3c 後半と推定できる。オリジナルのヘブライ語版は長く失われたものと思われていたが、19世紀に発見された。

Ich will euch trösten, wie einen seine Mutter tröstet.
 私は ~しよう 汝らを 慰める のように ~の人を 彼の 母が 慰める
 ※代.1s1 V.1s 現 代.2p4 [不定] adv 不定代.ms4 所形.fs1 fs1 V.3s 現

母がその子を慰めるように、私もあなたがたを慰めよう。(イザヤ書 66 : 13)

※この部分はイザヤ書の中で、「主は言われる」の後に続く『 』部分なので、「Ich=私」は「主」である。

第6楽章

Denn wir haben hier keine bleibende Stadt,
 なぜなら 私たちは 持つ ここに (～ない) 持続する 都市を
 conj 代.1p1 V.1p 現 adv 否冠.fs4 [現分]形.fs4 fs4

sondern die zukünftige suchen wir.
 そうではなくて 将来のものを 探し求めている 我々は
 adv 定 fs4 形.fs4 ※ V.2p 現 代.2p 現 ※後ろに Stadt が省略

この地上には永遠の都はない。私たちは将来のもの(都市)を求めているのだ。(ヘブル人への手紙 13 : 14)

※ zukünftige を「来たらんとする都」と訳すのは、黙示録 21:2 「天から新しい町エルサレムが下ってくる」に影響されている。別の場所から来る、というニュアンスを与えるのは誤解を招く訳である(口語訳・新共同訳)。

Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:
 見なさい 私は 言う 汝らに 一つの 秘密(奥義)を
 V.2s 命令 代.1s1 V.1s 現 代.2p3 不 ns4 ns4

Wir werden nicht alle entschlafen,
 我々は ～になる ～のではない 皆 眠り続ける
 代.1p1 V.1p 現 adv 形.p1 [不定] ※古語 entschlafen(安らかに眠る、=sterben 死ぬ)

wir werden aber alle verwandelt werden;
 我々は ～になる しかし 皆 変化させられる (受動態)
 代.1p1 V.1p 現 adv 形. [完分] [不定]

und dasselbige plötzlich, in einem Augenblick,
 同一の 突然に ～において 一瞬
 conj 指形.ns4 ※ 形 prep 不 ms3 ms3

zu der Zeit der letzten Posaune. ※ dasselbige (=dasselbe)は4格中性
 ～に 時 最後の ラッパの 名詞に係るのだが、それが無い。
 prep 定 fs3 fs3 定 fs2 形.fs2 fs2 (意味的には Augenblick に係る。)

Denn es wird die Posaune schallen,
 というのは ※ ～だろう ラッパが 鳴る
 conj 代 ns1 V.3s 現 定 fs1 fs1 [不定] ※非人称の es、仮主語

und die Toten werden auferstehen unverweslich,
 そして 死者たちは ～だろう 復活する 朽ちない
 conj 定 p1 mp1 V.3p 現 [不定] 形

und wir werden verwandelt werden.
 我々は ～だろう 変えられられる (受動態)
 conj 代.2p1 V.2p 現 [完分] [不定]

見よ、私はあなたがたに奥義を告げよう。私たちは皆、眠り続けるのではない。最後のラッパが鳴る時、一瞬に、突然にして変えられるのである。というのは、ラッパが響いて、死者たちは朽ちないものとして復活し、私たちは変えられるであろうから。 (コリント人への第一の手紙 15 : 51-52)

→ヘンデル「メサイア」ラッパのARIA

Dann wird erfüllet werden das Wort,
 その時 ~だろう 果たされる (受動態) その言葉が
 conj V.3s 現 [完分] [不定] 定 ns1 ns1
 das geschrieben steht;
 書かれて 存在する
 関代.ns1 [完分] V.3s 現

" Der Tod ist verschlungen in den Sieg.
 死は (受動態) 飲み込まれた ~の中へ 勝利
 定 ms1 ms1 V.3s 現 [完分] prep 定 ms4 ms4

Tod, wo ist dein Stachel?
 死よ どこにあるのか お前の とげは
 ms1 疑副 V.3s 現 所形.ms1 ms1

Hölle, wo ist dein Sieg? "
 地獄よ どこにあるのか お前の 勝利は
 fs1 疑副 V.3s 現 所形.ms1 ms1

そのとき聖書に書いてある言葉が成就するのである。

「死は勝利へと呑まれてしまった。死よ、汝の上がどこにあるのか？ 地獄よ、汝の勝利はどこにあるのか？」

(コリント人への第一の手紙 15 : 54-55 ※ただし原文と異なる→巻末で解説)

Herr, du bist würdig,
 主よ あなたは 相応しい
 ms1 代.2s1 V.2s 現 形.

zu nehmen Preis und Ehre und Kraft;
 受け取るのに 称賛 と 名誉 と 力を
 [不定] ms4 conj fs4 conj fs4

denn du hast alle Dinge erschaffen※,
 なぜなら あなたが (現在完了形) 全てのものを 創造した ※ルター訳聖書ではここも geschaffen。
 conj 代.2s1 V.2s 現 形.np4 np4 [完分] ブラームスによる変更である。
 (erschaffen は不定詞と完了分詞が同形)

und durch deinen Willen
 ~によって あなたの 意思 ※1格 Wille, 2格 Willens, 3・4格 Willen
 conj 副 所形.ms4 ms4 ※

haben sie das Wesen und sind geschaffen.
 持つ それらは 存在を そして (受動態) 創造された
 V.3p 現 代.np1 定 np4 np4 conj V.3p 現 [完分← schaffen]
 [=alle Dinge]

主よ、あなたこそは栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。なぜならあなたは万物を造られたのです。
あなたの意志によって、万物は存在し、また造られたのであります。(ヨハネの黙示録 4 : 11)

第7楽章

Selig sind die Toten,
 幸い である 死んだ者たちは
 形 V.3p 現※ 定 np1 np1 ※形容詞 tot(死んだ)の名詞化

die in dem Herren sterben, von nun an.
 ~において 主 死ぬ 今から後 (爾後、将来)
 関代.np1 prep 定 ms3 ms3 V.3p 現 prep adv adv

Ja, der Geist spricht,
 そうだ。 霊は 言う
 adv 定 ms1 ms1 V.3s 現

dass sie ruhen von ihrer Arbeit;
 [従属節] 彼らは 休む 彼らの 労苦 ruhen von s-r Arbeit
 conj 代.np1 V.3p 現 prep 所形.fs3 fs3 仕事を休む

denn ihre Werke folgen ihnen nach.
 それで 彼らの 所業は ついて行く 彼らの ~の後ろに folgen nach 3 格
 conj 所形.np1 np1 V.3p 現 代.p3 prep 後をついて行く

今から後、主にあつて死ぬ者は幸いである。

「然り」と御霊は言う、「彼らはその労苦を解かれて休み、その仕業は彼らについていく。」と

(ヨハネの黙示録 14 : 13)

※この Selig sind は、第 1 楽章の歌詞とは異なり、ギリシア語現文にも主動詞がある。黙示録 14 章 13 節は次の通り。

また私は、天からの声がこう言うのを聞いた。「書き記せ、『今から後、主にあつて死ぬ死人は幸いである』」。

御霊も言う「然り。彼らはその労苦を解かれて休み、その仕業は彼らについていく」。

この曲の両端楽章「悲しむ者は幸いである」「主にあつて死ぬ者は幸いである」は、似た雰囲気醸し出しているが、出所とその本来の意味は全く別のものである。

- 凡例
- ・名詞 ……ms1(男性単数 1 格), fp3(女性複数 3 格), ns4(中性単数 4 格) など
 1 格=主格、2 格=属格(所有)、3 格=与格(間接目的)、4 格=対格(直接目的)
 - ・代名詞 ……代.3p1=3 人称複数 1 格、代.3ns1=3 人称中性単数 1 格、関代.p1=関係代名詞複数 1 格
 - ・形容詞 ……形.ms4 など、「形」の後にそれが修飾する名詞などの性数格
 格変化は、単独の時は強変化、定冠詞を伴う時は弱変化、不定冠詞類を伴う時は混合変化。
 - ・所有形容詞 ……所形。1 人称 mein, unser、2 人称 dein, euer、3 人称 sein, ihr 不定冠詞と同じ格変化。
 - ・定冠詞 ……定 ms1。男性単数 der, des, dem, den、女性単数 die, der, der, die など
 - ・不定冠詞 ……不 ms1。男性単数 ein, eines, einem, einen、女性単数 eine, einer, einer, eine など
 - ・動詞 ……V.3s 現=3 人称単数現在形、V.2p 命令=2 人称複数命令形 など
 [不定]=不定詞、[完分]=完了分詞(現在完了形や受動態を作る)、[分動]=分離動詞 など
 - ・下線部は長母音 ……短母音は明るい発音、長母音は暗い発音になる。(やや短い長母音もある。)

ちょっと長めの注釈

第6楽章 「コリント人への第一の手紙」のルター訳について

「ギリシア語聖書」の第1コリント書第15章51-55節は次の通り。

⁵¹見よ、秘義をあなた方に申し上げよう。我々皆が死ぬわけではない。しかし皆が変えられるであろう。

⁵²突然に、瞬く間に、最後のラッパが鳴る時に。

すなわちラッパが響くと、死者たちが朽ちぬ者として甦らされ、我々は朽ちぬ者に変えられる。

⁵³というのは、この朽ちるものが朽ちぬものを着ることになるからである。

この死すべきものが不死を着るのである。

⁵⁴この朽ちるものが朽ちぬものを着、この死すべきものが不死を着る、

その時、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

“死は勝利へと呑み込まれた。 ⁵⁵死よ、汝の勝利はどこにあるのか。死よ汝のトゲはどこにあるのか。”

次にルター訳 54-55 節

⁵⁴ Wenn aber dies Verwesliche wird anziehen das Unverwesliche, und dies Sterbliche wird anziehen die Unsterblichkeit, dann wird erfüllt werden das. Wort, das geschrieben stehet:

"Der Tod ist verschlungen in den Sieg. ⁵⁵ Tod, wo ist dein Stachel? Hölle, wo ist dein Sieg? "

最後の“ ”内は、成就するとされた旧約聖書の引用である。

しかし、「死は勝利へと呑み込まれた」は、イザヤ書 25:8 の引用とされているが、全く似ていない。

続く 55 節は、ホセア書 13:14 の引用である。それは以下の通り

「死よ、お前の呪いはどこにあるのか。陰府(は 鞆)よ、お前の滅びはどこにあるのか。」(新共同訳)。

ここで陰府と訳しているのは「死者の世界」という意味の単語である。

だが、パウロの書いた第1コリント書のギリシア語原文は2回とも「死よ」だ。

ルターは、第1コリント書を訳す際に、引用元のホセア書に合わせて「死よ」「地獄よ」とし(死後の世界=地獄?)、しかも「勝利」と「トゲ」の順番をひっくり返して勝手な作文をしてしまった。これが当曲の歌詞である。

「死よ、汝のトゲはどこにあるのか? 地獄よ、汝の勝利はどこにあるのか?」

(この項については聖書学者 田川建三氏からご教示をいただいた。)

spin-offテーマ ヘンデル「メサイア」と英語欽定訳聖書(1611年, King James Version=KJV)について

ところで、第一コリント書 15 : 51-57 は、ヘンデル「メサイア」第3部の歌詞でもある。それは英語欽定訳聖書から採られている。

まず、第47・48曲バスのレチタティーヴォとアリア(=有名なラッパのアリア)で51-53節が歌われる。

続く54節は第49曲アルトのレチタティーヴォだが、ブラームスと同じく前半が省略され then 以降が歌われる。

そして第50曲アルトとテノールの二重唱で、55-56節が歌われ、アタッカで57節を合唱が歌う。

注目すべきは第55節だ。「O death, where is thy sting? O grave, where is thy victory?»。

「おお、死よ、お前のトゲはどこに? おお、墓よ、お前の勝利はどこに?」となっている。

欽定訳の訳者も、ギリシア語原文を見て訳したはずだが、「死者の世界」を“地獄”ではなく“墓”にただけで、いずれにせよルター訳と同じくホセア書に引きずられた訳になっている。

いや! むしろその後の「トゲは、勝利は」の語順を見ると、ルターに引きずられた訳というべきだろう。

欽定訳は、ドイツ・レクイエム第2楽章の「早いものと遅いもの」の部分(ヤコブの手紙 5:7 の最後)でも、

「until he receive the early and latter rain.」

と、ルターの解釈「雨」を引き継いでいる。「朝の雨と夕べの雨」ではなく「早い雨と遅い雨」と“微調整”しているのまで、第一コリント書の場合と似ている。

あとがき

この曲の歌詞の対訳として、日本語訳聖書の文を採用するのは間違っている。この歌詞は、「ルター訳のドイツ語聖書」から採用されているが、現代の聖書学から見て、ルターの翻訳に問題がある所も多々ある。さらにブラームスによる改変も一部ある。

私がここでやりたかったことは、あくまでも「ブラームスのドイツ・レクイエムの歌詞の逐語訳」である。そして節ごとに訳文とその出典を示し、注釈をつけた。

その際、インターネット上で最も参考になったページは、M. Kanzaki 氏のサイト

「[The Web KANZAKI music & knowledge sharing](https://www.kanzaki.com/music/ecrit/ein-deutsches-requiem.html)」の「ドイツ・レクイエムの歌詞と音楽」というページである。

<https://www.kanzaki.com/music/ecrit/ein-deutsches-requiem.html> このページで氏は次のように書かれている。

ドイツ・レクイエムの歌詞を考えると、(1)聖書の章句の本来の意味；(2) (略)ルター訳聖書の言い回しにおけるドイツ語の意味；(3)ブラームスが聖書の句の抜粋を並べて作り出そうとした独自の意味；の3つを考慮に入れ、最終的には(3)を伝えられる訳詞とすることが必要でしょう。

ブラームスは聖書の中から、明確な意図をもって語句を選び、元の文脈とは離れたところでそれらを配列、再構成しています。自らははっきりと、「ヨハネ福音書 3:16 (神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。) 》のようなテキストを意図的に避けた」と述べているのです。

仙台宗教音楽合唱団 (私の所属団体) や盛岡バッハ・カンタータフェライン等からなる Sasaki Kantorei Japan が 2013 年にドイツ演奏旅行を行った時のプログラムは、次のような構成であった。

1. ブラームス 「ドイツ・レクイエム」 第1楽章 「Selig sind, die da Leid tragen」
2. シュッツ 「Die mit Tränen säen」
3. シュッツ 「Selig sind die Toten」
4. ブラームス 「ドイツ・レクイエム」 第7楽章 「Selig sind die Toten」
5. シュッツ 「Also hat Gott die Welt geliebt」
6. バッハ 教会カンタータ第 68 番～終曲フーガ 「Wer an ihn gläubet」

プログラム 5. のシュッツの歌詞は、まさにブラームスが避けた「ヨハネ福音書 3:16」であり、バッハのカンタータ第 68 番第 1 曲もこれと同じである。そして 6. 同カンタータ終曲フーガは同じく「ヨハネ福音書 3:18」(彼を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の一人子を信じることをしないからである。) である。

我々の指揮者 佐々木正利氏が、このプログラム構成について、「ブラームスが避けたものを付加した」と述べていたのはそういうことだったのである。

ブラームスは明らかに「キリスト教のドグマ」を避けている。また彼は「キリストの復活に関わる部分は注意深く除いた」とも語っているという(Wikipedia 「ドイツ・レクイエム」)。よってこの曲は“典礼音楽”にはなり得ない。

一方、仙台宗教音楽合唱団が 2017 年 7 月に演奏した、シュッツの「音楽による葬送 (Musikalische Exequien)」は、日本では「ドイツ・レクイエム」という別名でも知られているが、こちらは歴とした“典礼音楽”である。おそらくブラームスは歌詞の選択においてシュッツのこの曲を参考にしたと思われる。

シュッツでは第 18 曲に「Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand」が、そして終曲では「Selig sind die Toten」「Sie ruhen von ihrer Arbeit」「Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand」が連続して出てくる。これを踏まえて、シュッツが歌詞に取り入れた「ヨハネ 3:16」を採用しなかったが故に、「そのような歌詞は避けた」との発言が出たと考えるべきだろう。

2016 年 3 月に、ハンスイェルク・シェレンベルガー指揮岡山フィル、岡山バッハカンタータ協会、仙台宗教音楽合唱団、盛岡バッハ・カンタータフェライン、山響アマデウスコアの共同企画による『東日本大震災 心の復興祈念コンサート ブラームス「ドイツ・レクイエム」演奏会』の共通ポスターには「残されて生きる」という一言が書かれている。シュッツとブラームスが、歌詞の選定にあたって重視したのも、「死者の平安」と同じく「残されたものの慰め」だったのである。

2018 年 3 月 山岸 健一